

【九九式艦上爆撃機の部品（尾翼部）の寄贈に至る経過】**昭和20年3月**

米軍機コルセア（以下、コルセア）は、日本海軍により佐伯湾上空で撃墜され海に沈んだ。

戦後、地元漁師によって引き上げられた機体の部品は、戦争遺構研究グループ「歴進会」によって大切に保管されてきた。

平成19年4月

佐伯市平和祈念館やわらぎ（以下、やわらぎ）リニューアルに併せ、歴進会からコルセアのプロペラ及び主翼の一部の寄贈があり屋外展示場で保管されてきた。

平成27年1月

ニューヨークにあるイントレピット海上航空宇宙博物館からコルセアの部品の寄贈要請があった。これらの部品は、佐伯市にとって貴重な戦争資料であるが、戦後70年が経過し、米国との友好の証としてまた世界平和を祈念し、米国国防省海軍歴史遺産管理局を通じて返還することとした。

平成28年3月6日

やわらぎで返還式典を行い、同28日にイントレピット海上航空宇宙博物館にて調印式（引き渡し）が執り行われた。

平成30年3月

コルセア部品の米国への寄贈に感銘をうけた米国のコレクターから、九九式艦上爆撃機部品（尾翼部）の寄贈申し入れがされた。

平成30年5月9日

九九式艦上爆撃機部品（尾翼部）がやわらぎに寄贈された。

平成30年6月

同部品について日本航空協会の専門家に調査依頼した結果、九九式艦上爆撃機二二型の尾翼部であり、ステンシルされた機体番号もあることから、資料的にも価値の高い大変貴重な部品であることが判明した。

また、機体番号から第五八二海軍航空隊の所属機で、ニューブリテン島（パプアニューギニア）で回収された機体の可能性があり、昭和18年12月に撃墜された機体と推定されるとの報告を受けた。

寄贈品については、貴重な戦争資料としてやわらぎで常設展示し大切に保管していく。

【九九式艦上爆撃機の部品（尾翼部）】

（機体イメージ）

